



山門水源の森・日帰りバスツアーの記録

1. 日時 : 令和元年7月25日(木) JR 島本駅(7:50)・阪急水無瀬駅(8:00) 集合
2. 目的 : 約4万年前にできた高層湿原の観察とその保全活動を学ぶ
3. 参加者 : 16名

8時 JR 島本と阪急水無瀬駅に集合した16名は 一路「山門水源の森」に向かってマイクロバスで出発。大山崎 IC から名神高速で京都を抜け 滋賀県の湖西道(161号線)を順調に進み 途中、**白髭神社**に立ち寄りました。この神社の鳥居は 琵琶湖の中・湖面に建っていました。次に 道の駅「藤木あどがわ」でも小休止。水無瀬出発からの道路状況はとてもスムーズで 時間的余裕が出来たので バスの運転手さんの好意もあり 予定外のマキノ高原アクセスロード両側に続く「メタセコイア並木」に寄って行く事になりました。車を降りて短時間でしたが写真タイムも取れました。 目的地「**山門水源の森**」には11時に到着出来ました。先ずは 到着を出迎えて下さったガイドさんにご挨拶後 「**森の学舎**」内で映像を使ってガイダンスを受け、その後 昼食を済ませて 山門の森の最も重要な場所と言われると**山門湿原**(高層湿原)を中心にして「**守護岩**」まで巡る「**ブナの森コース**」(11名)と少しショートカットされた「**四季の森コース**」(5名)の2グループに分かれて それぞれにガイドさんがついて案内をして頂きました。

森の学舎前には **人工的に作られた池**(ビオトープ)があり、キイトトンボ・ハッチョウトンボなどが見られました。山門のトンボは40種もいるそうです。沢道を進むと 多くの木に幾重にもテープが巻かれていました。鹿・熊などの動物から木の表面を守るためだそうです。爪痕が残った木も見ました。各所に柵や網が張ってありました。これらは**ササユリ**などを守るためです。再建された「**炭焼き小屋**」がありました。湿原の側に行くと ササユリを守るために一部の遊歩道をわざとササユリから遠くするように変更されていました。この辺りには ノリウツギ・ヤマナラシノキがあり、サギソウも見られました。南部湿原の表示板にはこの湿原に生える希少植物(ミヤマカウメモドキ・ミツガシワ・クサレソウ等)の保護について書かれていました。時々水分補給の休憩も取りながら アカガシとブナの2ショットが見られる「**ブナの森表示板**」前に出ました。

山頂に着くと風はとても涼しく 伊吹山も目に見えました。保護柵に囲まれたムラサキマユミ・トキワカソウの群落地そしてツバキなどが大変多い地点やジョーズの岩などを経て森の学び舎まで下りて来ました。



ガイドさんの丁寧で分かり易い説明や 最後までゆったりと回れたこともあり 参加者には大変好評で 帰途バスが北小松付近での交通事故渋滞にあって 約1時間足止めになりましたが 山門水源の森での一日は 「花の多い時期にまた来たい」「来てよかった 楽しかった」等の言葉が聞こえてきて 本当に良かったです。

